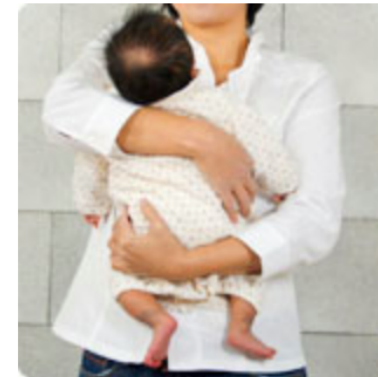


コアラ抱っこから新生児の基本抱きへ

「新生児の基本抱き」は、股関節脱臼をしやすい日本人の赤ちゃんのために考えられた抱き方です。先天性股関節脱臼といっても生まれてから後天的にはずれることが多く、生後3~4ヶ月の健診まではよく観察することが大切です。

この先天性股関節脱臼を予防するのに効果的なのがコアラ抱っこです。コアラ抱っこをスリングでやってみると「新生児の基本抱き」になります。

- コアラ抱っこは、赤ちゃんのおなかをお母さんの体に向かい合うようにして抱っこします。片手は赤ちゃんのお尻を支え、反対の手は赤ちゃんのくびや頭、上半身を支えてください。
- くびがすわるまでは赤ちゃんの体を少し傾けて、上腕部（力こぶができるあたり）に赤ちゃんの頭がもたれるようにするとくびが安定します。
- 横抱きで赤ちゃんのまたの間にお母さんの手を入れても股関節脱臼の予防にはなりません。



コアラ抱っこ: 正面



コアラ抱っこ: 両手

0~3ヶ月児

赤ちゃんのおなかをお母さんの体に向かい合うようにしてだっこします。

赤ちゃんは寝かせていると足を自然に開脚しています。

この足の状態をそのままにだっこします。

片腕は赤ちゃんのおしりの首や頭、上半身を支えてください。

首がすわるまでは赤ちゃんの頭を腕で支えるようにします。

スリングで月齢の小さい赤ちゃんを抱っこするときは、このコアラ抱っこをスリングで実践するようにしたいものです。[新生児からの抱っこ編へ](#)